

1. 教育の責任

国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護の実践力を有する人材育成の一翼を担っています。

2. 教育の理念

新しい命を育み家族を形成していく周産期にある母と児の身体的・心理的・社会的特性をふまえ、そのウェルネスの維持・増進のために必要な看護の知識・技術・態度を教授する。

女性とその家族に関わる看護援助を、エビデンスに基づいて教授する。

教育活動の全過程を通じて学生を尊重し、エンパワーする。

3. 教育の方法

【4年間を通じた教育】

2年次「母性健康看護学概論」「多様性とウィメンズヘルス」では、人間のセクシュアリティの生理的、社会的、国際的な特徴を教授し、3年次の「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護実践技術を教授したうえで、3年次「母性看護学実習」、4年次「統合看護学実習（母性）」で実際の対象への展開ができるよう、教授／学習活動を積み重ねています。

学習の積み重ねに困難を生じる学生には、2年次からオフィスアワーを活用してチュートリアルを実施し、個別対応をしています。毎年、この制度を20～30人程度の学生が利用しています。制度を利用しない学生に対しても、この制度があることを知ってもらうことで、質問や相談がしやすい空気を醸成しています。

他に「医療関係法規」の科目責任者として、看護および母子に関する法律の教授を担当しているほか、「看護研究Ⅱ」では科目責任者として学部全体の卒業研究の進捗状況を把握し、学部内の教育内容の統合が図れるようにしています。卒業論文指導は年間を通じて行い、インタビューや量的調査、文献レビューなど様々な研究方法の指導に当たり、全員が卒業論文を作成しています。

【講義・演習・実習のつながりと、教材や演習内容等の開発】

講義では、単元に応じた最新の政府統計や国際機関刊行物、学術論文から引用した資料を活用し、学生の知的好奇心を喚起しつつ、母性看護学の最新動向を踏まえています。演習では、周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）のウェルネスに焦点をあてた看護実践能力を、教示と繰り返しの練習などを通じて学べるようにしています。

英語教材は政府資料及びオリジナルの資料を併用し、母性看護を必要とする多様な対象者に“やさしい日本語”と英語を併用したコミュニケーションへの動機づけを行っています。「母性看護援助論Ⅰ」は、学生が2年次に促してきたノートテイクを発展させ、ノート型の教材を作成しました。さらに演習に関しては、医療機関内のみならず、地域母子保健の役割や実際を授業・演習・実習を通じて教授できるよう、2024年度はゲストスピーカー授業内で育児中の女性にも体験を語ってもらうなど、育児に関連する経験の少ない現代の看護学生に有効な学修を模索しています。新カリキュラム下で次年度新設される「地域連携継続演習Ⅰ・Ⅱ」で、今年に出会った母子を数年後に家庭訪問するよう計画し、看護新カリキュラムのねらいの先を行く教育を実施しようとしています。

【母性看護学領域以外の教育】

学部長として、全学生やその家族等への丁寧でタイムリーな対応や、教職員とのコミュニケーションのもとに学部方針的確な策定や実施に努め、それにより学部全体の教育力が最大化するように活動しています。国際学術協定校との関係強化やMOUの延長、新規締結など、国際看護学部での看護教育をより豊かに実施できる環境整備を不断に行っています。

大学院の研究科目群を通じた教育と、助産実践科学の教育では「助産管理」を通じて管理業務の基盤にある助産師の実践にも言及するなど、担当する教育の幅や奥行きは増えています。

4. 教育の成果

個別指導の成果として、講義終了時の中間・定期テストは平均70点以上となっています。学生アンケート結果は平均を上回ってお

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：藤井 ひろみ 作成日：2025年1月9日

り、学習満足度は総じて高いと受け止めています。加えて、チュートリアルで個別に意見を聞き、それに基づいて課題の内容を変更するなど、学習効果を高めるようにしています。講義・演習内での学生の発表は活発です。実習指導者合同協議会などを通じ、実習指導者からの評価も良好な状況です。国家試験対策でも学生の評価を得ており、対策講義などを実施した後、学生の模試結果も順調に伸長しています。

5. 改善への努力と今後の目標

授業アンケートの回答率が低く、様々なアナウンスを凝らしているが、改善が見られないことから、授業時の入力を徹底して促す方針です。

母性看護学領域長として、若手教員の育成や能力開発支援をこれまでも行ってきたが、その成果とさらなる目標として、演習科目の単元分担の変更・更新を掲げ、次年度の若手教員が活用できるような教材開発を行いました。次年度はそれらを活用し、実際に単元や教員の役割変更を実践します。

【添付資料】

- ① シラバス「母性健康看護学概論」「多様性とウィメンズヘルス」「母性看護援助論Ⅰ」「母性看護援助論Ⅱ」「母性看護学実習」「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」
 - ② 開発教材（「看護研究Ⅱ」「母性看護援助論Ⅰ」授業資料抜粋）
 - ③ 学生アンケート（2023年度春学期）
- ②のみ下記に一部掲載

国際会議での発表

例：International Council of Nurses (ICN)

- 3年に1度のカンファレンス（会議）では、研究発表／実践報告が可能。
- 英語、スペイン語、フランス語の同時通訳があるが、発表は英語。
- ICNIは個人会員を取っていないが、世界の看護協会が会員となっており、看護協会員はメンバーとみなされる。

◆ ICN Congress 2025 HP を見てみよう ◆



Nurses together: a force for global health

The International Council of Nurses and the Canadian Nurses Association are delighted to invite you to attend the ICN Congress, 1-5 July 2025 in Montreal, Canada, which will bring together the powerful force of the 28 million nurses worldwide!

母性看護援助論Ⅰ：本日の授業のポイント

■定義 分娩期にある人を（ ）という。

分娩期とは、分娩（第 1 期）開始から分娩第 3 期終了までをさす。第産婦とは妊娠 22 週以降の分娩を指す産婦であり、経産婦とはすでに妊娠 22 週以降の分娩を経験したことのある産婦をいう。

分娩とは、（ ）およびその付属物（胎盤・胎膜・臍帯・羊水）が母体外に娩出されることをいう。分娩は、産道（骨産道・軟産道）、娩出力（陣痛・腹圧）、娩出物（胎児および付属物）という分娩の三要素が相互に作用して進行していく。

分娩開始とは、陣痛周期が規則正しく10分以内または1時間に6回以上になった時点指し、次のように経過する。

- 分娩第 1 期（宮口期） 分娩開始から子宮口全開大（10cm）までの時期。
- 分娩第 2 期（娩出期） 子宮口全開大から児の娩出までの時期。
- 分娩第 3 期（産後期） 児の娩出から、胎盤と胎膜の娩出が完了するまでの時期。これによって胎児と付属物の娩出が終了し、分娩が完了したこととなる。
- 分娩第 4 期 胎盤および胎膜の娩出後 2 時間までの時期。

産水とは



陣痛 発生

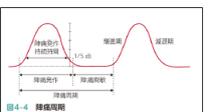


図4-4 陣痛周期



図4-16 経骨盤性胎児の子宮



図4-21 骨盤のメカニクス